

# 飛行機エンジン試験開始

## 大樹で 28日まで騒音を計測

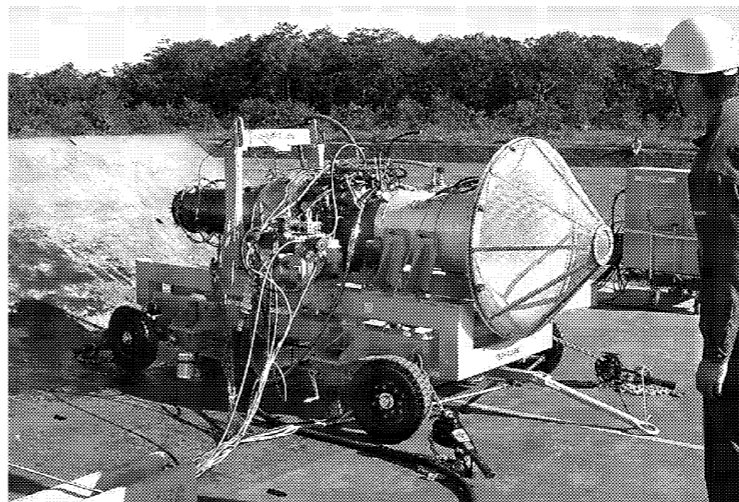
【大樹】ジェットエンジンの音源計測技術を確立する試験に伴い、独立行政法人航空宇宙技術研

究所(NAL)は24日、大樹町多目的航空公園で、同エンジン「YJ69」を単体で滑走路に固定し、稼働させた。周囲で騒音も測定した。

NALの航空推進研究センター高速機用エンジングループの二村尚夫リーダーは「屋外でジェットエンジンを安全に運転できる技術を確認した。一時的だが計測もでき、良いデータも取れた。本格的な計測試験は2004、05年に行う」と話している。24日以降も実施し、28日までに終える予定。

「YJ69」は1960年代、アメリカのテレダイン社が開発し、米軍が訓練で使う無人標的機に搭載。全長1・6メートル、最大推力840キロ。最新のエンジンと、発生音の性質が似ているため試験素材に選ばれた。

この日は、伏見悦夫町



台車に載せ滑走路上に設置されたジェットエンジン「YJ69」

長や関連企業の関係者らが見守った。午後2時半から同エンジンの運転を開始。1時間ほど稼働させ、「キーン」という高い音が周囲に響いた。エンジン方向の1カ所に計測器を置き、その他の5カ所ではNALの職員らが機器を持ち、それぞれ騒音を計った。NALは一連の試験を通じ、エンジンのどの部分から耳障りな音が出ているかを正確に把握する技術を確認。将来的に、航空機が往来する空港周辺の住民のため、騒音を軽減したジェットエンジンの開発に役立てる。

(浅井文人)